

(技術名) モズク養殖との複合栽培時におけるクビレオゴノリの効率的な養殖							
(要約) モズク養殖との複合栽培時におけるクビレオゴノリの効率的な養殖として、モズク養殖実施海域である沖側では、モズク養殖での沖出し時期より早い8～9月に養殖を開始することで約3回収穫することができ、また、モズク養殖不適地である岸側では、10～11月に養殖を開始することで、効率的な養殖ができる。							
水産海洋技術センター海洋資源・養殖班					連絡先	098-852-4530	
部会名	水産業	専門	養殖	対象	クビレオゴノリ	分類	研究
普及対象地域							

[背景・ねらい]

本県水産業を支える基幹産業であるモズク養殖は生産量の年変動が大きく、漁家経営の安定化を図る上で、モズク養殖と複合的に実施できる新たな海藻類養殖の導入が求められている。その対象種として2013～2015年までの研究によりクビレオゴノリ養殖が複合栽培の候補として有力であることがわかった。そこで本研究では、モズク養殖との複合栽培時におけるクビレオゴノリの効率的な養殖方法の検証を目的として、クビレオゴノリ種付け網の沖だし時期の検討と、モズク養殖不適地である河口付近や浅海域での養殖可能性について、試験を行った。

[成果の内容・特徴]

県内3カ所（宜野座、久米島、知念）で2016年8月から2019年3月の間に、それぞれ3回／年の養殖試験を行った。（表1）。

- クビレオゴノリ種付け網の沖出し時期は、8～11月が適しており（ $p < 0.01$ ）、モズク養殖適地（以下、沖側）とモズク養殖不適地（以下、岸側）では、その収穫量や沖出し時期が異なる（ $p = 0.07$ ）。
- 沖側では、8～9月に種付け網を海に出すことで最も収穫量が高く、一網（49cm × 20 cm）あたりの平均収穫量は3,675 g（9試行）、約3回収穫できた（表1、図1）。
- 岸側では、沖側よりも収穫量は少ないが、10～11月に網を海に出すことが効果的で、同じく一網あたりの平均収穫量は1,499 g（10試行）であった（表1、図1）。
- 再収穫する場合には、生長した藻体の基部2～5 cm 残した状態で網を再設置する必要がある（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- クビレオゴノリ種付け網の沖出し初期において、シルトの堆積の影響と考えられる生育不良がみられたことから、今後、その影響緩和対策の検討が必要である。
- 食害対策としての防止ネット設置とその管理に係る経費節減を図る必要がある。

[具体的データ]

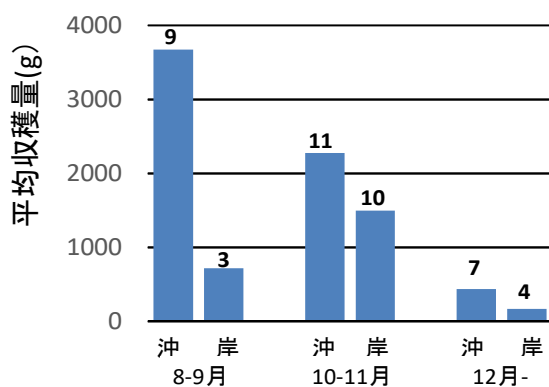


図1 沖出し時期別海域別収穫量
数字は試験区の試行回数を示す。

表1 沖出し時期別海域別の養殖試験結果

開始時期	モズク養殖適地(沖)			モズク養殖不適地(岸)		
	平均収穫量(g)	平均収穫回数	試行回数	平均収穫量(g)	平均収穫回数	試行回数
8-9月	3,675	2.9	9	717	1.0	3
10-11月	2,275	1.9	11	1,499	1.3	10
12月-	438	1.1	7	170	1.0	4
合計	2,135	2.0	27	1,048	1.2	17

※一網の面積は、0.098㎡(49cm×20cm)



図2 収穫直後と再収穫時の養殖網

A : 2017年11月16日 3,045 g 収穫、B : 再設置状況、C : 2018年1月24日 3,080g 再収穫

[その他]

課題 I D : 2016水001

研究課題名 : クビレオゴノリ養殖適地に関する技術開発

予算区分 : 沖縄振興特別推進交付金

研究期間 : 2016～2018年度

研究担当者 : 井上 顕・石川貴宣

発表論文等 : 井上 顕 (2017) 沖縄水海技セ事報、No.77:120-125、沖縄水海技セ事報、No.78
(掲載予定)